

## 【はじめに】

平川塾は平成元年4月に開塾しましたので、平成というひとつの時代の始まりとともに歩んできたという感覚が強く、令和という新元号になった最初の日は、ひとつの時代が終わるといふ想いと同時に新たな潮流へのチャレンジが始まる予感で、万感胸に迫るものが全身を駆けめぐっていました。昭和36（1961）年生まれ。高度経済成長期真っただ中、小学生時代を過ごし、中学1年生のときにオイルショックを経験した世代であり、大学センター試験の前身である共通一次試験の初年度受験の世代です。塾を開設した当初は、お預かりするお子さまの親御さまのほうが年上で、やがて同年代となり、今や私のほうが年上で、気づけば塾屋稼業も34年目を迎えることができているのですから、感謝の極みです。最初はお母さまにくるまれるようにしてやってきて、ときには私の膝の上に乗っかりながら学習をしていた子が、ちょっととした反抗期を迎えてたたいいた減らず口がいつの間にか敬語に変わり、スタッフとして戻ってきてくれたり、何気なく近隣を歩いている私に声をかけてくれたりすることもあります。そのたびにかなり遠のいている記憶を懸命にたぐり寄せながら、見違えるほどに立派になった息子さんや素敵になった娘さんのお姿を前

にして、この仕事にたずさわられた自分の幸運をかみしめるとともに、このようなお子さまの人生のうちで最も劇的な成長期間に微力ながら親御さまと一緒に歩ませていただける至福を授かれる贅沢な恩恵に、深い感慨を覚えずにはいられません。

さて、幸運にも、あろうことか、想いの赴くままに書き散らしている私のアメーバブログの記事に目をとめてくださった出版社からお声を掛けていただけるなどは夢にも思っていなかったのですが、「国語についてあなたの想いを自由に綴られてください」ということで、はて、どのようなことを発信すればいいのか、ブログで鼻息あらく書いているとはいえ、正直、明確な方向性を示すとすると、今さらながらブログで思いの丈を発するのと、このように書籍として発するのでは、次元が大きく異なることを目の当たりにし、当惑する日々が長く続きましたが、ようやくイメージが見えてきました。

成績をアップさせるためのスキルや受験のためのスキルが書かれたものは、私のよりもずっと優れた内容の書籍としてすでに書店の本棚に並べられています。そこで、「ゆとり教育からの脱却」以降大きく様変わりする教育環境の中で、子どもたちにどのように関わらせていたただいているかという現場の様子や私の想いに迫る形をとりながら、親御さまへのメッセージになればと思っています。とりわけ、「国語力をわが子に身につけさせたいが、どこから何を始めて、それをどのようにつないでいけばいいのか、その方法も道の

りも見えるようで見えない」という、特にお母さま方からのお声をいただく機会が増えてきている現状を鑑みながら、なるべく具体的にわかりやすく、心をこめてお伝えできればと思います。そして、決して完璧にお伝えすることはできないにせよ、お読みくださったあなたの一助になれば、これ以上の幸せはありません。